

令和元年第2回定例夕張市議会

令和元年度 教育行政執行方針

令和元年6月5日

令和元年度 教育行政執行方針

1	はじめに	1
2	教育行政の基本姿勢	2
3	重点施策の推進	3
	目標1 確かな学力を身につける教育の推進 ...	3
	(1) 確かな学力の育成	4
	(2) 小中高校魅力化の推進	5
	(3) 国際理解教育の充実	5
	(4) 特別支援教育の内容充実	5
	(5) 情報教育の充実	6
	(6) キャリア教育の充実	6
	目標2 豊かな人間性を身につける教育の推進 ...	7
	(7) 家庭教育の支援	7
	(8) 幼児教育の充実	7

(9) 学校安全教育の充実	8
(10) 学校と地域の連携・協働の推進	9
(11) いじめや不登校児童生徒の防止	9
(12) 教職員の資質向上に向けた取組	10
目標3 健やかな心身を育む教育の推進	11
(13) 体力・運動能力の向上	11
(14) 地域の特色を生かした活動の推進	11
(15) 食育の推進	12
(16) 部活動の活性化	12
(17) 総合型地域スポーツクラブの実施・推進	13
(18) スポーツ関連施設の維持・活用	13
目標4 人と人、地域と地域をつなぐ社会教育の推進	14
(19) 拠点複合施設の計画的・効果的運用に向けた 協議推進	14
(20) 人材バンクの活用	15
(21) 郷土学習の推進	15
(22) 石炭博物館・文化財の保存及び活用の推進...	15

(23) 高齢者教育の充実	16
(24) 社会教育・生涯学習の振興	17
4 おすびに	17

1 はじめに

令和元年第2回定例市議会の開会にあたり、夕張市教育委員会の教育行政執行に関する主要な方針について申し上げます。

夕張市は平成28年度、財政再建と地域再生の両立を図り、夢と希望に向けた新たな財政再生計画を策定いたしました。

この計画に基づき教育行政関連事業では、全国初となる小中高一貫のマンツーマンオンライン英会話を実施いたしました。

これにより令和2年度新学習指導要領の改訂や大学入学共通テストにいち早く対応することができたところです。

公設塾の開設なども進められ、子どもたちの学習の環境は、少しずつですが着実に整備されてきております。

地域の宝である夕張の子どもたちに教育改革の道筋を絶つことなく、教育に投資することで、地域は確実に豊かになります。

今後も夕張の教育環境魅力化に向けた取り組みを力強く推進してまいります。

一方、財政再生団体となってから、これまで大人は子どもたちの教育を優先に考え、自分たちの学びの機会を後回しにしてきたようにも思えます。

子どもから大人まで全ての市民が学べる生涯学習社会の実

現は、持続可能な地域づくりに直結するものと考えます。

住民が他者に気づかい、人と人とのきずなを強め、人々が物質的にも精神的にも心豊かで幸せな人生を過ごすためにも「ひとづくり構想ゆうばり」の実現が望まれます。

令和元年度、総合戦略との整合性を図り、「ひとづくり構想ゆうばり」を柱に、教育が果たさなければならない役割に向けて着実に歩んでまいります

2 教育行政の基本姿勢

変化の激しい社会を生きていくため、児童生徒一人ひとりに確かな学力を身につけることができるよう、知識・技能や思考力・判断力・表現力の育成、主体的に学習に取り組む態度、人間性の育成が望まれます。そのため、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の改善と「社会に開かれた教育課程」の実現が重要になってまいります。

本市の小中学生の学力は、平成30年度学力学習状況調査の結果で、改善の傾向はみられるものの、全国・全道の平均に至っておりません。今後も引き続き、学力向上に向けた教育活動の検証と、学校と家庭、地域との協働を図り改善に向けた取組を進めてまいります。

一方、夕張市の高齢化率は 50% を超えています。財政破綻前後の医療費の比較では、むしろ破綻後の医療費が低下しています。

これは自分の健康は自分で守る、いわゆる自助・共助の意識向上の現れと思われれます。

しかし、元気な大人の多い夕張市ですが、学びの活動に偏りがあるのも現状です。

市民一人ひとりが生涯にわたって健康を考え、スポーツや文化に親しみ、生きがいを感じる生涯学習社会を実現するため、いつでも・どこでも・だれとでもいろいろな活動に親しむことができる「総合型地域スポーツクラブ」を立ち上げました。

夕張市のまちづくりコンセプトにある「文化、スポーツ交流の街ゆうばり」を復活させ、ひとが集い、知識と教養があふれるまちづくり、ひとづくりに向かって歩み続けます。

以上を鑑み、夕張市教育大綱の基本目標に基づき、令和元年度に取り組む重点施策を申し上げます。

3 重点施策の推進

施策項目は、基本理念と 4 つの基本目標で示した方向・視点に沿って、個別・具体的な施策・事業等を体系的に整理したものです。

項目ごとに「現状と課題」「施策の方向性と展開」の内容で構成しています。

目標 1 確かな学力を身につける教育の推進

(1) 確かな学力の育成

平成 30 年度の全国学力・学習状況調査の結果から、ゆうばり小学校、夕張中学校の学力の実態は、改善がみられるものの平均正答率がほぼ全ての教科・項目で全国・全道を下回っています。

問題 A は「主として知識」、問題 B は「主として活用」の力を判定するものですが、主に問題 B の判定に低い評価が示されています。ただし、夕張中学校では国語 A「書くこと」が全国を上回り、理科「地学的領域」が全国と同程度の学力になっています。

今後の取組では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業改善及び職員研修の充実が急務です。

また、基礎学力向上を目指し放課後学習支援事業（サポートスタディ）の活用とコミュニティ・スクールとの連携を強化し、「社会に開かれた教育課程」の実現を図るとともに、教職員が授業に専念できる環境を整備してまいります。

さらに、道教委が千歳科学技術大学と連携協力する「eラーニングシステム」を活用し、放課後学習・家庭学習の支援に努めてまいります。

(2) 小中高校魅力化の推進

ここ数年、夕張高校進学率が高まってきてはいるものの、安定しているとは言えません。

このため、夕張高校の進学実績の向上や部活動の活性化を図り、夕張高校の魅力化を推進し、夕張高校への進学率を高めてまいります。

一方、夕張市の宝である子どもたちの育成は、地域経済の活性化には不可欠なものです。

このため、教育の魅力化は高校にとどまるものではなく、義務教育の支援を高め、夕張高校へと継続していくことが重要です。

(3) 国際理解教育の充実

令和2年度、小学校では外国語の教科化、大学入学共通テストでは英語の4技能が評価されます。グローバル人材の育成と特色ある英語教育の実践は、夕張の子どもたちに自信と誇りの育成に直結するものです。

平成30年度から完全実施した小中高一貫のマンツーマンオンライン英会話を教科書に準拠したものとし、ALTの活用も含め、身近な地域で英会話に挑戦できる機会の拡充などに努め、国際理解教育の充実を一層図ってまいります。

(4) 特別支援教育の内容充実

近年小中学校では、特別支援学級の在籍者や通級指導を受ける児童生徒が増加しています。

これを受け、今後は学校全体で特別支援教育の専門性を高める必要性があります。

また、インクルーシブ教育の理念を踏まえ、「夕張市障がい児教育促進協議会」及び「夕張市特別支援教育連絡協議会」等と連携を図り、特別支援教員の配置と活用を促し、一人ひとりの教育ニーズに応じた指導や支援を推進していきます。

(5) 情報教育の充実

本市の小中学校は小規模校ですが、どの地域や規模であっても教育水準を維持し、児童生徒の多様な体験や交流機会を確保することが大切です。

また、令和2年度からプログラミング教育が必修化になることを受け、ICTを効果的に活用した「わかる授業づくり」を展開することが重要です。

そのため、教員がICTを活用する指導力の向上に向けた教員研修を実施するとともに、ICT環境の充実を図ってまいります。

(6) キャリア教育の充実

子どもたち一人ひとりに学校と社会のつながりを意識させ、他者と連携協働し、地域の課題解決に向け主体性を担う力の育成が重要です。

小中学校のできるだけ早い段階で将来の夢や目標をもたせ、社会的・職業的な資質・能力を育んでいきます。

小学校では、学んだことを振り返り、新たな学習を生活への意欲につなげるなどの活動充実を図っていきます。

中学校では、学ぶことと働くことの意義を意識させ、学習の見通しを立てることができるよう、職場体験などの体験活動を充実させていきます。

また、主権者教育を推進するため、社会科や総合的な学習の時間などを通じて、児童生徒の発達の段階に応じた学習を推進します。

目標 2 豊かな人間性を身につける教育の推進

(7) 家庭教育の支援

核家族化による家族形態の変化や少子化の影響により、子育てに不安や悩みを抱える保護者が増加し、家庭教育が困難な現状にあります。このような家庭教育環境は、子どもたちに大きな影響を及ぼすことが考えられます。

子どもたちが健やかな体と確かな学力を身につけるには、望ましい生活習慣の定着が重要です。このため市内外の教育関係団体等と連携を強化し、子どもたちがお互いに尊重し合い、礼儀正しく思いやりのある人間育成に努めてまいります。

(8) 幼児教育の充実

夕張市では、幼児教育と小学校との接続が十分とは言えません。

幼稚園（認定こども園）、保育所における幼児教育の質の向上を図り、幼児教育と小学校の円滑な接続に向け取り組んで

いきます。

幼児教育の質の向上を図るために、教職員の研修会を開催し、幼稚園教育要領に沿ったカリキュラム・マネジメントに基づく学びの連続性を確保した取り組みを促進します。

令和3年度、認定こども園の開園にあたり、子ども・子育て会議の意見を踏まえて、幼稚園・保育所との連携を強化し、効果的な運営に向け適切に対応してまいります。

今後とも国や北海道の方策に注視し、保育料のさらなる負担軽減及び職員の処遇改善に努めます。

(9) 学校安全教育の充実

学校管理下における幼児・児童・生徒が巻き込まれる事件・事故が後を絶たず、安全管理の充実が求められています。

本市の通学路では、「夕張市通学路交通安全プログラム」に基づき、教育機関・警察・学校運営協議会等との連携を一層強化し、地域全体で子どもを守る意識を高めてまいります。

また、児童見守りシステムや一斉同報サービスも活用し、保護者の安心感に努めてまいります。

近年の温暖化による異常気象（暴風雪も含む）や地震などの自然災害に対し、命を守る意識の醸成に努めるとともに、地域の実態を踏まえた災害に対する避難訓練の取組に努めます。

学校保健につきましては、予防的見地からインフルエンザなどの感染症や食中毒、う歯、アレルギー対策を講じてまいります。医療機関・保健所等との速やかな連携を図り、元気で安

全な学校生活が過ごせる環境づくりに努めます。

(10) 学校と地域の連携・協働の推進

平成 30 年度、学校と地域が一体となって子どもたちの成長を支えるため、コミュニティ・スクール（学校運営協議会）を導入いたしました。

地域の教育力を生かした学校づくりと地域の特色を生かした子どもの拠点づくりの推進を図ってまいります。

児童の放課後の居場所づくりでは、両親の共働きなど様々な支援を必要とする子どもに対し、今後も「げんき」「クレヨン会」を実施してまいります。

全国的な学校の働き方改革の観点から「夕張市教職員働き方アクション・プラン」を策定いたしました。

特に部活動対応が教員の多忙化の大きな原因とされ、地域の教育力である外部指導者の活用が望まれています。

教職員が子どもと向き合う時間を確保できるよう、放課後学習支援事業（サポートスタディ）の活用と学校運営協議会との連携を強化し、持続可能な学校運営体制の整備に努めます。

(11) いじめや不登校児童生徒の防止

子どもたちが学校生活に満足しているか、学級集団の実情を確認できる「Q-U」を引き続き実施し、いじめ防止及び早期発見に努めます。

平成 30 年度は小学校、平成 31 年度には中学校で教科「道

徳」が実施され、人として必要な規範意識の醸成や情報モラル教育に努めるとともに、教職員の研修会への参加を促し、児童生徒の健全な育成に対応してまいります。

また、不登校は、早期の支援が必要で学校関係者や家庭、関係機関が情報を共有し、計画的、組織的に取り組まなければなりません。不登校児童生徒へのきめ細かな支援を行うため、「児童生徒理解、教育支援シート」の活用や専門的な相談が受けられる窓口の周知、多様な教育機会を提供する団体との連携による地域ぐるみの支援体制を充実してまいります。

(12) 教職員の資質向上に向けた取組

教員の退職者の関係から教員の経験年数の均衡が崩れ始め、知識・経験の伝承が難しくなっています。

本市では教職員の資質・能力の向上に向け、研修会への積極的な参加や市内の研修会開催に努めてまいります。

また、教職員による体罰（含言葉の暴力）やわいせつ行為、飲酒・酒気帯び運転などの不祥事防止に努めるとともに、不適切な指導の根絶に努めてまいります。

一方、教職員の健康管理ではストレスチェックの活用により、早期発見、早期治療に向け対応してまいります。

目標 3 健やかな心身を育む教育の推進

(13) 体力・運動能力の向上

小学校 5 年生と中学校 2 年生の「全国体力・運動能力、運動

習慣等調査」の結果から、劣っている体力や運動能力の向上に向けた日常的な教育活動に努め、全国・全道レベルにしてまいります。

体力の向上については、幼小中高校に限定せず、市民全体で体力向上に向けた取組に努めてまいります。

(14) 地域の特色を生かした活動の推進

北海道は冬季における活動が特色の一つとされ、特に夕張市は、道内でも屈指のスキー場があります。

学習指導要領には、地域の特色を生かした教育課程の実現が謳われており、小中高校においてスキー授業を今後も継続して実施致します。

また、企業及びスキー協会等との連携により、全道・全国規模のスキー大会を誘致し、まちの活性化に努めてまいります。

一方、特産品である夕張メロンの活用では、中高校と大学並びに農協・企業等との連携を図り、新たな商品開発に努め、起業創出につなげてまいります。

さらに、地場産業の後継者・人材育成のため、農協等の連携に努めます。

(15) 食育の推進

児童生徒が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけることができるよう、学校において食育を推進すること

が望まれます。

学校給食については、地元食材や季節に応じた新鮮で安全な食材を取り入れ、食を通じて地域を理解し、自然の恵みや勤労の大切さを育んでまいります。

学校給食を安定かつ迅速に提供するため、外部業者への委託を進めます。

朝食摂取は、生活習慣の定着や学習能力の向上などにつながります。

学校・家庭・地域が連携するコミュニティ・スクールにて「早寝・早起き・朝ごはん」運動を推進してまいります。

(16) 部活動の活性化

学校教育において、進学と部活動の取組は重要な柱です。また、充実した授業運営や補完的な学習サポートは進学の成果につながります。

青年期においては身体づくりも重要な要素であり、身体づくりが学力の基盤になっています。

身体づくりに欠かせない活動が部活動であり、地域の実態に合った部活動の設立と道教委が実施している「外部指導者活用事業」を活用いたします。

また、教職員の働き方改革の観点から、総合型地域スポーツクラブへ部活動を移行する準備も進めてまいります。

(17) 総合型地域スポーツクラブの実施・推進

子どもから高齢者まで運動やスポーツ・文化等に親しみ、学校、家庭、地域が一体となった活動機会を充実するために、年間を通じ、総合型地域スポーツクラブ推進に努めてまいります。

道内のプロスポーツ団体や大学等と総合型地域スポーツクラブが連携を図り、市民の初心者からトップアスリートまでが楽しめるクラブ活動の推進に努めます。

全国で議論されている働き方改革の一助としても、総合型地域スポーツクラブの推進は大きな意義があります。

総合型地域スポーツクラブの活動拠点は、ゆうばり文化スポーツセンターですが、夕張市民健康会館、夕張市営球場、夕張市紅葉山パークゴルフ場のほか市内小中高校の空き教室も活用し、活動範囲の広域化を図ってまいります。

(18) スポーツ関連施設の維持・活用

健康でたくましい身体づくりには計画的なスポーツ活動に加え、スポーツ環境の整備・充実が重要です。「文化・スポーツ交流のまち・夕張」の推進に向け、関連施設の活性化に努めてまいります。

ゆうばり文化スポーツセンター、夕張市民健康会館、夕張市営球場、夕張市紅葉山パークゴルフ場など、指定管理者とのスポーツ推進施策に加え、円滑な運営と利用促進を図ってまいります。

総合型地域スポーツクラブの開設を受け各施設の活用を促すとともに、市外のスポーツクラブの合宿誘致拡大に向け、クラブ運営者・体育協会と連携を強化し、スポーツ関連施設のさらなる活用を図ってまいります。

目標4 人と人、地域と地域をつなぐ社会教育の推進

(19) 拠点複合施設の計画的・効果的運用に向けた協議推進

令和元年度完成予定の拠点複合施設は、子育て支援・社会教育事業の拠点施設としての役割を担うことから、市民が潤いある生活を送り、持続可能な地域づくりに向けた生涯学習活動推進に努めてまいります。

拠点複合施設の利用促進とともに、計画的・効果的な運用に向け、拠点複合施設活用促進委員会を設置し、各種関連団体と様々な事業の協議・検討を図ってまいります。

拠点複合施設には、図書(コーナー)機能が加わることから、市民の図書活用の拡大を図るとともに、子どもの読書活動推進のための環境を整備してまいります。

(20) 人材バンクの活用

市民の様々な要求に対応するためには、学習機会を提供する人材バンクの整備が必要です。

平成29年度には「夕張市ふるさと人材バンク」の規約等の整備を行い、平成30年度には広報等を通じて、指導者登録を

致しました。

今後は、総合型地域スポーツクラブと連携を図り、人材バンク登録者の活用を推進し、「文化・スポーツ交流のまち、夕張市」に向けた取組を強化してまいります。

(21) 郷土学習の推進

郷土学習につきましては、ゆうばり小学校の「地域資料室」、夕張中学校の「ゆうばり歴史・教育資料室」を広く公開し、夕張市の学校の統廃合や炭鉱の歴史を学ぶ機会の推進に努めます。

また、社会科副読本「ゆうばり」を活用した総合的な学習の時間を充実し、特色ある地域学習の推進に努め、子どもたちの郷土愛教育の推進に努めてまいります。

(22) 石炭博物館・文化財の保存及び活用の推進

平成 30 年度に夕張市石炭博物館がリニューアルオープンし、約 3 万 1 千人の来場がありました。

「地域で支え、関わり、学ぶ場としての博物館」「地域の記憶を補完する博物館」「変わり続ける博物館」をコンセプトとし、空知の旧産炭地域の中核施設になるよう、市民利用の促進・石炭産業の歴史を積極的に発信してまいります。

令和元年早々に、石炭博物館模擬坑道が火災に見舞われましたが、今後は指定管理者との協議を積極的に行い、夕張市の総力を挙げ、開館に向け努めてまいります。

一方、文化財につきましては、「夕張市文化財保護委員会」と協議し、国の天然記念物である「夕張岳」、北海道の天然記念物の「夕張の石炭大露頭」、夕張市指定文化財の「採炭救国抗夫の像」の保存や活用、普及活動に取り組んでまいります。

学校教育や社会教育の場における文化財を活用した学習機会の充実により、文化財に親しむことができる機会の充実に取り組めます。

(23) 高齢者教育の充実

既存の「もも倶楽部（高齢者学級）」に、一人でも多くの高齢者が参加し、仲間づくりに努めるとともに、自主運営ができる環境づくりに努め、生きがいや健康づくりを推進してまいります。

総合型地域スポーツクラブと連携を図り、芸術・文化のみならず、軽度な運動にも取り組み、活動の範囲を広げるよう努めてまいります。

また、高齢者の生きがいに寄与するため、世代間交流事業の推進に積極的に支援してまいります。

(24) 社会教育・生涯学習の振興

市民が潤いある生活を送るとともに、持続可能な地域づくりを進めるために、生涯学習活動を通じて、その成果を生かせる環境づくりが求められます。

そのため、社会教育の推進には、専門的な助言指導する社会

教育主事の活用は不可欠です。個人や団体の多様な活動に積極的な働きかけに努め、社会教育の推進と学校教育の連携による生涯学習の振興に対応するとともに、専門職の育成に努めてまいります。

また、学習拠点となる公民館、拠点複合施設、石炭博物館及び文化スポーツセンター等の施設の充実に向けて、各施設が有する特色あるプログラムの充実、施設間相互の連携を支援・促進します。

平成29年3月に策定した「第6次夕張市社会教育推進計画」の実施状況を検証し、生涯学習社会の実現に努めてまいります。

4 おすびに

「平成」が終わり、「令和」の新しい時代を迎えました。

夕張市は、新しい時代の波に乗り遅れることなく、新たな教育の推進に向かい着実に進んでまいります。

「平成」は、夕張市民にとって厳しい時代でしたが、この経験は今後のまちづくりにとって貴重な財産であり、二度と繰り返してはいけない意識の醸成につながったと考えます。

今後は、より一層、高い志や意欲を持ち自立した人々の育成、他者と協働しながら課題を解決し、未来を創り出す人材育成を図って、まち全体で知恵を出し合う教育環境に努めてまいります。

市民のみなさま、そして市議会議員のみなさまには、今後も引き続きご理解ご協力ご支援をいただけますよう、心からお願いを申し上げ、令和元年度教育行政執行方針といたします。